

3月11日、あの日から1年。

今なお続く避難生活で苦しむ中でも、前を向いて一歩一歩踏み出している広野小学校卒業生と広野中学校卒業生。そんな子どもたちの背中にそっと手を添え、成長を温かく見守りながらも苦悩する保護者。卒業式を迎えた場所・環境は違えども、広野小学校卒業生・広野中学校卒業生・保護者としての心はひとつ。それぞれの卒業式で発表された別れのことを掲載します。

広野中学校 卒業式 卒業生 「答辞」

卒業 それは『特別』な日
卒業 それは 私たちのゴール
卒業 それは 僕たちの 旅立ちの日
卒業 それは 一年前の 震災の記憶
卒業！

去年の3月11日……。震災は卒業式の日に起こりました。あの日から、私たちの中学校生活は、すっかり違ったものになってしまいました。私たちが普通に過ごし、広野中学校で中学3年生を迎え、いつもどおりの仲間と、いつものように暮らし、夏には中体連の最後の大会を目指し、そして秋にはきっと広蜚祭で盛り上がり、やがて81名の仲間と、もしかしたら今日の卒業式を無事、みんなを迎えていたかも知れません。

去年の卒業式の午後、築地が丘体育館
8月に大きなニュースが伝えられました。広野中再開のニュースです。

僕は、広野中生として卒業したかったのでも、『すぐにも行きたい。』と親に伝えました。両親は理解してくれました。僕はその時、友達とまた会える喜びだけで、心の中がいっぱいだったように思います。

僕には広野中が合っていました。転校先の学校に慣れなかったこともありすが、高校はいわきの高校に通学したかったので、早めにいわきに帰ろうと思って



でバレーボールの練習をしていた私は、グラウンドに避難し、雪の降る中、先生方が準備してくれたテントの中で余震におびえながら、寒さに震えていました。

僕は、浅見川の下流で、津波に飲み込まれる家々や、駅から避難してきた乗客が、体育館に上ってくる姿が、今でも頭に焼き付いて離れません。

しかし、起きてしまったことを、今更無かったことにしたいと思ってみても始まりませんし、悔やんでも仕方のないことです。

私は、震災後、親戚の家や体育館で避難生活を送り、現在は仮設住宅で生活を送っています。学校も2度変わりました。湯本二中は3回目の転校ですが、広野中に戻ってくるのができてうれしく思っています。

いました。広野中でまた友達に会えることはもちろん、親が、自分の進路を最優先に考えてくれたことが何よりもうれしかったです。

僕は、栃木県に避難していました。しかし広野中の人が数多く避難していると聞いていた、いわき市に戻りたくてしかたがありませんでした。僕は、平三中に転校しました。平三中の野球部に所属し、外野手、5番バッターを務めさせてもらい、試合にも出させてもらいました。中体連の最後は、平二中との対戦でした……。

平二中にも広野中の友達が2人いました。それが僕の最後の試合でした。広野中の野球部として県大会出場という一年前の大きな目標は叶えることができませんでしたが、いつの日かまた、広野中のメンバーが集まって、あのなつかしい広野中のグラウンドでキャッチボールをしたいと思います。それが、今の僕の夢になりました。

広野中は10月3日に、ここ湯本二中で学校を再開することができました。私たちが快く受け入れてくださった、いわき市の皆様、ありがとうございます。

また、湯本二中の、校長先生はじめ先生方、湯本二中の生徒の皆さん、校舎をいろいろ使わせてくださいます、ありがとうございます。

広野中が10月に再開して、私たちはふ

僕の父は、あの日以来、仕事を失いました。しかし家族は、僕の部活動に対する熱い気持ちを知っていたので、部活がしやすいようにと、僕の都合を優先して転校先を考え、学校の近くにアパートを見つけてくれました。

避難先での生活は、辛いことばかりではありませんでした。私は父の実家のある高知県まで避難しました。転学先の中学校で、私はバレーボールで県大会に出場することができました。チームメートにも恵まれ、高知県の強豪校の一員として試合に出場し、バレーボールができる喜びを感じることができました。福島で果たせなかった県大会出場の夢を、そして最後の中体連の思い出を避難先の中学校で作ることができました。

思い返すと、私たちは、広野中学校で1、2年生として過ごすことができ、本当に幸せでした。

1年生では、全国各地から集まったアカデミーの人達と入学後に出会ったこと、北茨城の龍神大吊り橋や袋田の滝へ学習旅行に行ったこと、楽しかった芋煮会や学年レク、広野町の『まると調査隊』の学年発表を行った広蜚祭……。

中2の学習旅行は、東京お台場での班別自主研修でした。職業調べをしながら東京の街を歩いて回りました。思えばあれが、1年早い修学旅行のような旅行でした。

たたび友達と会うことができました。

それは本当に嬉しい出来事でした。

10月末には、神奈川新聞社さんや、神奈川県教育委員会さんのご支援によって、鎌倉や横浜への学習旅行に行くことができました。

僕たちにとって、この旅行の思い出は、どれほど嬉しかったかわかりません。広野中の中3として、出かけることのできた一番楽しい旅行になりました。

さらには、これまで学校再開のために力を尽くしてくださいました、広野町の町長さんはじめ、町議会の皆様、役場の職員の皆様、教育委員会の皆様、ありがとうございます。

また、これまで、私たちを支えてくださいました、校長先生はじめ先生方、1、2年生の後輩の皆さん、今までお世話になりました。

私たちは十分に良い生徒、必ずしも立派な先輩ではありませんでしたが、皆さんと一緒にこの半年間を過ごすことができ、本当に幸せでした。広野中の、このささやかな灯火を、絶やさずに伝えていってください。

震災以来、これまで全国各地から届けられたたくさんの方の応援や支援も忘れられません。

今までお世話になりましたすべての皆様に、今、心から感謝の気持ちを伝えたいと思います。

2年生で迎えた広蜚祭では、『ダーツの旅』をヒントに、テレビ番組風にふるさとの紹介を劇にまとめ、発表しました。広蜚祭当日、僕は劇の中で、カメラマンを担当しました。

僕は、学年の発表劇で、トトロのヘルメットをかぶったことが忘れられません。

『もし広野中で3年生を迎えていたら、何が一番楽しかったですか』というアンケートの答えとして、最も多かったのは、「広蜚祭」という答えでした。もしあのまま3年生として広野中で広蜚祭ができたとしたら、合唱も、劇も、きっと一番素晴らしい発表ができたのではないかと考えています。



最後に、中学卒業まで育ててくださった、お父さん、お母さん、ありがとうございます。

特にこの一年は、めまぐるしく変わる状況の中でも、私たちが毎日を安心して過ごせるように、いつも見守ってくださいました。今までわがままを言って困らせたこともありましたが、今、心を込めて言いたいと思います。

ありがとうございます。

こうして、お別れの言葉を申し上げている間にも、刻、一刻とお別れの時が近づいて参りました。名残は尽きませんが、最後に卒業生全員、未来に向かって羽ばたくことを誓い、お別れの言葉といたします。

さよなら、後輩の皆さん。

さよなら、先生。

さよなら、友達。

さよなら、私たちの母校。

広野中学校

平成23年度卒業生（在籍数 13人）
阿部俊介、遠藤涼太、柏穂乃香、金子沙矢、小松愛里、田村章悟、根本美奈、根本勇輝、松本優奈、山内一希、遠藤大志、松本絵里香、水竹彩花